

2 主な土砂災害の事例

三重県は日本列島のほぼ中央部に位置し、温暖な気候と美しい景観を有しています。反面、急峻な地形のため、土砂災害の発生しやすい特性を持っており、梅雨前線による豪雨や台風等により県内各地で大きな土砂災害に見舞われ貴重な財産や尊い人命が失われてきました。

1 昭和34年9月26日 伊勢湾台風

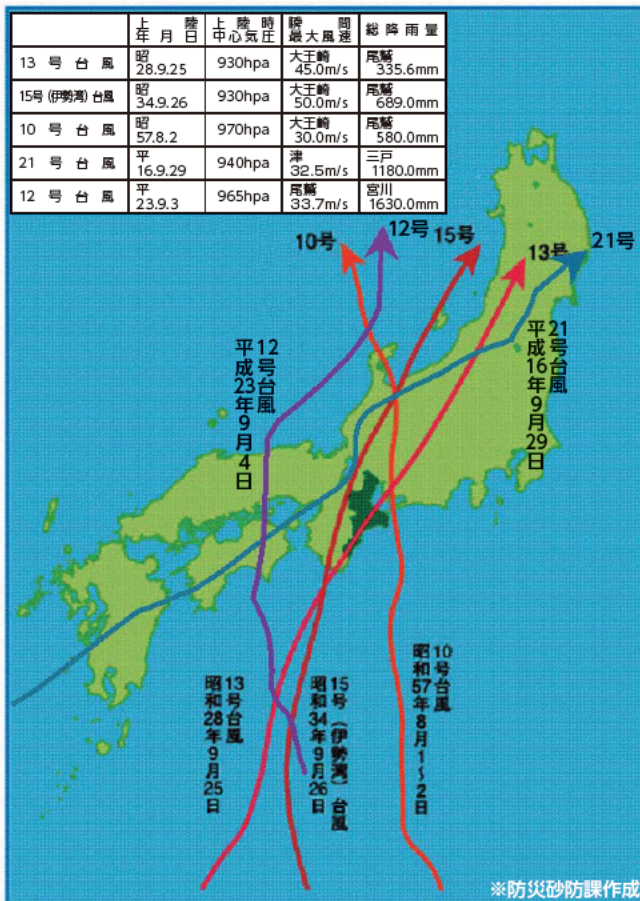
発 生 年 月 日 昭和34年9月26日
 誘 因 台風15号
 主な被害概要 死者1,233名、行方不明48名、
 負傷者5,688名

この台風による被害は、県内全域に及びましたが、特に県中央部では、集中豪雨により山の各所で多数の山崩れが発生しました。また、山崩れで発生した土砂が土石流となり多量の土砂礫、流木を一気に押し出し、小河川の下流部をことごとく埋没させてしまいました。

このため、周辺は石と泥土の原と化し、更に一部は下流本川に流入して河床を上昇させ、堤防決壊、橋梁の流出等をもたらし、被害を大きなものとなりました。

この台風による県内の死者、行方不明者は1,281名にものぼりました。

県下に大きな被害をもたらした主要台風の経路図



里川 (松阪市飯高町蓮)
 台風による土砂流により埋没した耕地



宇谷川 (津市美杉町八知)
 台風の出水による山地崩壊により流出した土砂のため埋没した小学校